

研究室だより

貝山久子

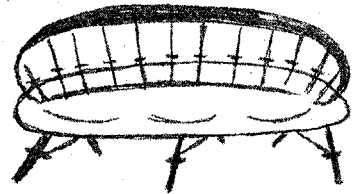
今年は5月に雨が多かったせいか、キャンパスの木々のみどりが例年にまして色濃く、うっそうと茂っているように思えます。

卒業生の皆様お変わりもなくおすごしでしょうか。研究室だよりのペンを取るたびに、月日のたつのが早いのおどろかされます。

卒業生の方々のよき先輩であり、また研究室のよき助手であったイノゴと井上さんがこの四月から神奈川県の川和高校の先生に転職なさいました。新設の学校とて、中々御多忙のようですが大いにハリキっているらしいようですから、井上さんのお教えを受ける沢山の生徒さんのためにもよき先生としての今後に期待いたしましょう。井上さんの後任は、今春都の西北早稲田大学御卒業の原高則さんです。原クンは何から何まで松井先生のお若いころに瓜二つ……だそうです。中には松井先生の御親戚と間違えた人もあります。いつもニコニコ精励おこ格闘で、怒ち皆仲良しになってしまいました。7回生の鈴木さんは研究員になられ、8回生で明治大学大学院の岡崎さんが科研費(渡辺先生を代表者とする総合研究“日本の地域区分”)に関するお手伝いその他で、週1回みえています。加えて今年は専攻科に深津・山中両嬢が入学しましたので、研究室は大いににぎやかです。

今年からまたカリキュラムに一部変更がありました。集落地理学Ⅰは集落地理学に、集落地理学Ⅱは地図学(基礎図学・測量)に地質学は地質学Ⅰ、層位学は地質学Ⅱ(水利地質、陸水実験)、岩石鉱物学は地質学Ⅲ(地質図学、地質調査)、Ⅳ(高度土壌実験)となりました。特別講義としては前期に別枝先生の政治地理学、福井先生の気候学特講、後期に有末先生の交通地理学、幸田先生の工業地理学があります。

渡辺先生は昨秋日本学術会議の方四部会員に当選なされ、地理学研究連絡委員会委員長、日本地理学会の常任委員長に加えて、又一段とお忙しくなられたため、この春とうとう高血圧で一週間ばかり休まれました。しかし今はすっかりお元気で、多方面に御活躍です。松井先生はじめ浅海先生、式先生、吉田先生も相変らずお元気で、御研究に、学生指導に御多忙です。学生委員の重責を果された式先生に代って、こんどは吉田先生が寮務委員になられ、新寮問題その他頭をなやませておいでになるのは本当にお気の毒です。私もおかげ様で元気、去年は前に申しました科学研究費関係の仕事もあって、何かと忙しい一年でした。積極的に人



を助けることは申すに及ばず、他人に迷惑をかけないということすら云うべくして行われ難いことを痛感させられました。

また大正11年から昭和33年まで、地理学教室の主任として、教室の発展のためにお尽し下すった飯本先生がこのたび本学名誉教授になりました。

今年の卒業生は15人、在アメリカの背の君のもとにかつつけた中村陽子さんの外は、進学組3人をも含めて全員就職、例年に較べて教職が多かったのはまことに結構でした。高校の地理が4時間の必須にさしかえられる事として、地理の教員はブームが予想され、8人が都立高校の教員試験にパスしましたが、現実意外にきびしく、2人が決まったにすぎませんでした。公立高校への道は中々険しいと申さねばなりません、高校の立場から云えばまた無理からぬことと申せましよう。多士済々まことににぎやかだった11回生が抜けたあとは、苦々しいというより可愛らしい1年生が13人顔をそろえました。頭の中に100人を超える卒業生の顔がストックされてみると、新入生の面差しに昔の人のそれを見ることが出来て、中々興味深いものがあります。たとえば新入生のAさんは卒業生の(Bさん+Cさん)+2、DさんはEさん×0.6+Dさん×0.4といったあんばいです。前号発行以降の卒業生のおめだたは次の通り、2回生川井さん、4回生 春木さん、6回生石渡さん、大内さん、7回生 吉村さん、8回生 浜田さん、水谷さん、10回生 上條さん、相馬さん、三輪さん。卒業式の文部次官の祝詞によれば、本学で学んだ有為にして教養高き女性に国家社会が期待する所以のものは、卒業生が職業人として直接文化の発展に寄与することより、むしろすぐれた母性として優秀な子供を生み育てることにあるそうですから、その前提としての結婚は亦御本人のみならず、国家社会にとってもまことに喜ばしいことといえましよう。しかしこの祝詞をうかがったときは、眉すかしをくったような、又ヤレヤレと安心したような複雑な気持におそわれるのをどうすることもできませんでした。

地理学科の同窓会は、例年11月の徽音祭に行われております。昨年のお会にも多くの方が出席して下さってにぎやかでしたが、今年もどうぞ沢山おでかけ下さって、学び舎の発展と、後輩の活躍をごらんいただきたく存じて居ります。

